

くぐつね山の不思議な夏



原作／斉藤洋

『遠く不思議な夏』
(偕成社刊)より

脚色／松下哲子

演出／ふじたあさや

音楽／川崎絵都夫

振付／酒井麻也子

美術／池田ともゆき

衣裳／生田志織

照明／坂本義美

音響／山北史郎

制作／上保節子

おはなし

小学4年生の夏休み、おじいちゃんの家があるくぐつね山で過ごすことになったほく。

東京から列車で二時間、そこからバスで一時間。バス停でほくを待ってたのは、「きつつあん」というおじいさんだった。きつつあんは、ほくをリヤカーに乗せ、おじいちゃん家まで連れていく。

「おめえいくつになった」

「10歳」

「じゃあ、まだ見えるかもしれないねえな。」

「何が見えるの?」

「さあな。」

謎のおじいさん「きつつあん」と、話好きなおじいちゃん。

キツネに化かされたり、お地蔵様が魚を釣ったり、それほんと? あずきあらいに神隠し。それって作り話?

そして、ある時できた、友だちのテルジ。

自分のことは、誰にも言うなあって、テルジって何者?

これは、ほくが経験した「くぐつね山の不思議な夏」のおはなし。

上演にあたって (演出の言葉より ふじたあさや)

昔、この国には、さまざま不思議がありました。キツネに化かされた人もいっぱいありましたし、人魂を見たという話も、数多くありました。そんなもの、あるはずはない。あると思ふなら、科学的に証明しろ——と、学校では教えるようになってきましたし、幽霊の話なんかしやうものなら、「迷信を信じることか」と馬鹿にされるようになりました。そうです。そんなもの、あるはずありません。しかし、「ない」と言い切ってしまったとき、私たちは、何か大切なものを忘れてしまったのではないか? 人が人であり、ここが日本であるために必要な、何か大切なものを——しみじみとそんな気にさせてくれる、それが斉藤洋さんの「遠く不思議な夏」です。



劇団創立74年。浜組、松組、風組の3班に分かれ、全国の小・中学校の演劇教室を中心に活動しています。

公益社団法人 教育演劇研究協会



劇団 たんぽぽ

〒435-0015 静岡県浜松市東区子安町323-3

TEL053-461-5395

FAX053-461-6378